

HEALTH CARE

The Newsletter of the Japan Health Care Dental Association

vol.10 no.2

(年間6回刊行・通巻055号)



日本ヘルスケア歯科研究会

事務局 東京都文京区関口1-45-15-104

☎ 03-5227-3716

Fax. 03-3260-4906

URL <http://www.healthcare.gr.jp>

E-mail : center@healthcare.gr.jp

編集代表 杉山精一

編集制作 有限会社 秋 編集事務所

巻頭 日本を担う若者達のために ... p.1	歯科衛生士育成プログラム第2期生募集 ... p.12
私たちは何ができるのか	歯科衛生士法の改正を求める請願署名について ... p.14
Do プロジェクト (2007年) 調査1募集 ... p.3	ヘルスケア・フォーラム ... p.15
第5回認証ミーティング 報告 ... p.4	書評 ... p.18
第2回オピニオンメンバー会議報告 ... p.6	コアメンバー会議報告 ... p.19
私の医院の健康手帳活用法 ... p.10	ワンデーセミナーお知らせ ... p.20

「日本の明日を担う若者達のために 私たちは何ができるのか」

藤木省三 (コアメンバー)

○ 研究会入会金 歯科医師	5,000円
その他	3,000円
研究会年会費 歯科医師	12,000円
その他	6,000円
郵便振替口座 00190-7-407895	
口座名義 日本ヘルスケア歯科研究会	
銀行振込口座 三菱東京UFJ 江戸川橋支店	
普通 931013	
口座名義 日本ヘルスケア歯科研究会 代表 秋元秀俊	

重要なお案内

●以下の同封物をご確認ください。

1. 国際外傷歯学会パンフレット
2. 歯科衛生士法改正陳情書名用紙
3. 歯科衛生士育成プログラムパンフレット
4. 郵便振替用紙
2007年度会費未納の方に同封しています。(行き違いになりましたら、ご容赦ください)

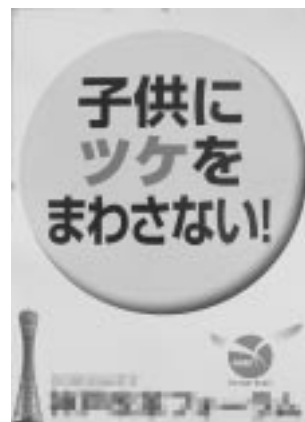
催しものご案内

- ① スタッフまるごと医院を変える
ワンデーセミナー (札幌)
日時: 2007年5月20日 (日)
会場: 北海道歯科医師会館
- ② ワンデーセミナー (名古屋)
日時: 2007年7月8日 (日)
会場: 安保ホール (名古屋市)
▷ 詳細 p. 20
- ③ 歯科衛生士育成基礎コース ①②
日時: 2007年7月15・16日
会場: 都内歯科衛生士学校
▷ 詳細 p. 12
- ④ 第6回認証ミーティング
日時: 2007年9月9日 (日)
会場: 未定
- ⑤ ヘルスケアミーティング2007
日時: 2007年11月10・11日
会場: 東商ホール (東京)

「子供にツケをまわさない！」って??

私が住んでいる神戸でも、統一地方選挙が終わりました。選挙では、各政党、候補者がさまざまなことを訴えていました。その中に右のような「子供にツケをまわさない!」と書かれたポスターがありました。神戸市では、「神戸空港を作る際の借金を誰が払うのか?」「結局、自分たちの子供達の世代が苦勞するのではないか」という議論がありました。私はこの標語からそれとは別のことが頭に浮かびました。

私には二人の娘がいます。そして、将来にわたって彼女たちが安心して住める世の中であって欲しいと心から願っています。子供がいてもいなくてもほとんどの人はそう考えていると思いたいのですが、悲しいことに海外や日本の出来事をみていると決してそうではない人たちも結構多いのだと感じます。そうだからこそ、「子供にツケをまわさない」って当たり前のことを今更言わなければならないかな、と勘ぐってしまいました。



歯科界での「子供にツケをまわさない!」

前置きが長くなってしまいましたが、今年の秋のヘルスケアミーティングでは日本ヘルスケア歯科研究会として「日本の明日を担う子供達」のために私たちは何をすべきなのかをテーマとして二日間行います。「子供達のむし歯はどんどん減っているのにどうして今更?」という声も聞こえてきそうです。そのような方は、一度自分が生活している地域の学校の子供達のDMFTの分布や12歳以降のう蝕の増加を調べてみられるとよいと思います。そこには、平均的なう蝕の減少からは見えないさまざまな問題が隠されています。

一方、日本ヘルスケア歯科研究会設立以前から子供のう蝕予防に取り組んできた人には、自分たちとともに歩んできた多くの子供達が健康な口腔の状態で成人を迎えることができることを知っています。そして、二十歳までを健康に過ごすことができれば、高齢になっても大過なく過ごすことができるとの実感を持っています。

今秋のヘルスケアミーティングでは、年齢を時間軸にしてさまざまな要因に分けて考える予定にしています。一つの区切りとして「二十歳」までを考えた場合にどのような問題

があるでしょうか？ 疾患として“う蝕”を考えれば、ある年齢でのリスクを把握する検査だけでなく年齢という時間軸を考えて発症のリスクを捉えることでより確かな予防が可能になると思われます。歯周炎に関しても、本質を知ることによって若年者ではどのようなことに気を付けておかなければならないかがわかります。生涯を健康に、楽しく生活するためには歯列や咬合に関しても無関心ではられません。これらは診療室内で解決すべき問題と言えるかもしれません。

社会的な視点から“う蝕”を捉えれば、学校内での DMFT の格差、地域間での格差、診療室に来院できる人とできない人、障害を持つ人への対応など診療室では解決できない問題も多く残されています。当たり前のように考えてきた学校健診にもメリット、デメリットがあります。さらに、社会保険制度に関しても本当に子供達の歯を守る制度になっているのか疑問です。

「子供にツケをまわさない！」ためには、時代に流されてしまうのではなく診療室内、診療室外でどのようにすべきか、どのようなべきかを一人ひとりが考える必要があると思います。

ヘルスケアミーティングでは、これらの多くの問題に関してコアメンバーを中心にテーマごとにまとめてみようと考えています。若年者の歯周病は足本敦さん、不正咬合は成田信一さん、う蝕は伊藤中さん、海外の歯科医療制度に関しては秋元秀俊さんが担当します。

診療室で何をすべきか

子供達の歯の健康を守るためには社会的要因が大きな影響を与えることは事実ですが、私たち日本ヘルスケア歯科研究会会員の診療室では“今”できることを誠実におこなって結果を出すことが重要だと思います。

私は開業して 22 年経過しますが、最善の努力をしたつもりでも歯列が崩壊していくのを止めることができない患者さんがおられます。そのような患者さんに共通するのは、若い頃に多くの（今から考えると不適切とみられる）補綴処置を受けておられる方のように思われます。私たちが常に主張している発症予防はもちろんのこと、発症してしまったう蝕に対する適切な処置も同様に大きな影響を与えます。

そこで、ヘルスケアミーティングのメインシンポジストとして名古屋市で開業されている月星光博さんに来ていただくことにしました。月星さんは多くの著書、講演、セミナーでご存じの方も多と思います。患者さんに対する限りない情熱、精密かつ正確な資料を取りつつ定期管理をおこなう姿勢、整理された理論と卓越した手技から生み出される最小の侵襲治療は全ての日本ヘルスケア歯科研究会会員に役立つと信じています。

おわりに

診療室でできることは一人ひとりが最善の努力をする。診療室でできないことは（Do プロジェクト、認証制度、ヘルスケアミーティングなどを利用して）日本ヘルスケア歯科研究会として全ての会員が協力して成し遂げる。その試みの一つとして、二十歳までをテーマにこれから具体的に煮詰めていきます。どうかご期待ください。

2008 年 1 月にシンポジストの月星光博さんが会長をされている、国際外傷歯学会世界大会が「ミニマルインターベンション」をテーマに名古屋で開かれます。ここで学ぶことができる知識は、私たち日本ヘルスケア歯科研究会が目指す「患者さんが健康で快適に過ごす」診療に不可欠なものばかりだと思います。パンフレットを同封いたしましたので、是非多くの会員の皆様に参加していただきたいと思います。



その他催しもの案内

札幌ヘルスケアグループ主催 第 1 回シェリーバーズ SRP 実習

シェリーバーズ先生を札幌に招き、スケーリング、ルートプレーニングの実習を行います。新人からベテランまで、基本をしっかり学びたい歯科衛生士のための内容の濃い 2 日間の実習コースです。参加診療所の歯科医師もオブザーバー参加（実習は無し）できます。医院全体の総合力アップのチャンスです。定員まで残りわずかとなりましたが、参加希望者はご連絡ください。

日 時：2007 年 6 月 9 日（土） 9:30～5:30 p.m.
6 月 10 日（日） 9:00～5:00 p.m.

会 場：9 日（株）モリタ北海道支店（札幌市）
10 日 北海道ハイテクノロジー専門学校（恵庭市）

参加費：歯科衛生士：30,000 円
歯科医師（オブザーバー参加）：10,000 円
（昼食費別）

お問い合わせ、連絡先：E-mail: hito-4@mse.biglobe.ne.jp
FAX 011-837-5335（齊藤 仁）

Do プロジェクト (2007 年度)

杉山精一 (コアメンバー)

今年も初診患者の実態調査をおこないます。この調査1は、日常診療の基本的データ管理ができていれば、それ以上ほとんど労力はかかりません。この調査に参加することが医院のデータ管理のスタートにもなります。自動的にデータをクリーニングするテンプレートを用意しましたので、患者データを見直すきっかけにもなります。昨年は準備不足で参加できなかった医院も今年は時間に余裕がありますのでぜひ参加してください。

調査 1

初診患者実態調査 (2006 年初診患者についての実態調査)

【調査の目的】

- 1) 日本ヘルスケア歯科研究会の会員診療所の協力により調査を行ない、日本における歯科疾患の状況を把握することを助ける資料とし、今後の歯科医療環境の改善に役立てる。
- 2) 歯科医院に来院する初診患者の状況を把握して、診療室における診療システムの改善に役立てる。

【調査参加資格】

- 1) 日本ヘルスケア歯科研究会会員の診療所
- 2) 初診患者について以下の資料があること
5 歳から 20 歳：DMFT
20 歳以上： DMFT, 残存歯数, 歯周病進行度 (パノラマではなくてデンタルレントゲンによって判定), 喫煙経験。
但し、初診患者全員について、すべての項目のデータが揃っていなくてもかまいません。例えば 1 日しか来院がなくて、残存歯数のデータしかない場合もあるということです。
- 3) 資料をデジタルデータ (ウイステリアまたはエクセルファイル) で提出。

【調査対象患者】

2006 年 1 月 1 日から 2006 年 12 月 31 日に来院した初診 (診療室に初めて来院) 患者全員

【資料提出期限】

2007 年 8 月 31 日

【参加申込】

2007 年 **5 月 31 日**までに事務局

【その他】

調査医院名は事務局で匿名化されて集計します。

結果は 11 月のシンポジウムで公表します。

昨年は 30 歯科医院 11,675 名の初診患者データが集計されました。

第5回 認証ミーティング

2007年2月25日(日)

東京歯科大学水道橋 血脇記念ホール



外部審査員の尾崎 雄さん(左)、月崎時央さん(中央) 佐藤由美子さん(右)

去る2月25日、東京歯科大学血脇記念ホール(東京・水道橋)において第5回「健康を守り育てる診療所」認証ミーティングが開催された。この診療所評価は、患者に十分な情報を伝え、健康がもたらされていることを評価基準にしているが、アンケートを通じて評価をまず患者に委ね、またプレゼンテーションでは患者の健康アウトカムの評価も重視されている。認証済みの医療機関は、今回の5診療所を合わせても30余りと数はまだ少ないが、審査に外部審査員を招き、公開審査をするという点で、内輪の仲間ぼめになりがちな医療機関評価における突出した試みとして評価されつつある。

今回は申請の上、審査を受けた以下の5診療所が認証診療所となった。当日は午前中のオピニオンメンバー会議と同じ水道橋病院で開催されたこともあり、多くの聴衆が参加した。

【認証を受けた診療所】

おおくぼ歯科(代表者:大久保 篤・堺市)

浦崎歯科医院(代表者:浦崎裕之・金沢市)

つくばヘルスケア歯科クリニック(代表者:千ヶ崎乙文・つくば市)

まさき歯科医院(代表者:藪下雅樹・習志野市)

斉藤歯科医院(代表者:斉藤 仁・札幌市)

※千ヶ崎乙文さん(元コアメンバー)は、過去に千ヶ崎歯科医院として認証を受けているが、新しい診療所を開設し態勢が整ったため「つくばヘルスケア歯科クリニック」として認証を受けた。また斉藤歯科医院(斉藤仁さん・コアメンバー)もすでに認証を受けているが、認証の審査基準の変更に伴って、再度審査を受けた。

午後2時、河野正清さん(コアメンバー)による審査趣旨説明の後、おおくぼ歯科の大久保篤さんを皮切りにプレゼンテーションが始まったが、プレゼンテーションに先立って、申請書に沿ってそれぞれの診療所のプロフィールと患者アンケートの要点(同時に資料として配付された)が紹介され、それに続いて、各々20分の発表。その後、審査員および会場からの質問に答えた。

審査員には、コアメンバー6人(当日審査を受ける1名を除く)の他、医療ジャーナリスト(元日本経済新聞編集委員、

さわやか福祉財団編集委員、AID老・病・死を考える会世話人、コミュニティケアリンク東京副理事長)尾崎雄さん、医療ジャーナリスト月崎時央さん、パルシステム生活協同組合連合会「くらしサポート推進室」佐藤由美子さんの合わせて9人があたった。

審査は診療哲学、プロフィール、システムの確立、チーム医療、データから学ぶ、歯周病およびう蝕のリスク管理、社会貢献、中長期目標の9項目について、予め決められた配点に従って評価を受けた。なお、今回から外部審査員は歯周病



発表者に質問する尾崎さん



大久保篤さん



浦崎裕之さん



千ヶ崎乙文さん



藪下雅樹さん



斉藤 仁さん

およびう蝕のリスク管理については、採点から外れた。

終了時、3人の外部審査員の感想の後、審査員9人の採点表が映し出された。5診療所の採点結果は、約72点から88点まで開きがあったが、全申請者が認証を受けた（70点以上で認証クリア）。中身の濃い2時間半の認証ミーティングが瞬く間

に幕を閉じた。

なお、次回認証ミーティングは9月9日開催の予定だが、次回からは先に公表されたステップアップガイドに沿って、申請書のフォーム、審査基準が改められ、プレゼンテーションのひな形が用意される。



外部審査員講評



尾崎 雄（元日本経済新聞編集委員 元日経ウーマン編集長）

初めてこのような採点をするようになったため評価の基準をどこにおけばいいのかとまどった。最初は甘く、後半から辛くなってしまったようだ。わたしは先端医療よりも、むしろ地域の医療連携に関心をもっている。今後、開業医が地域におけるプライマリケアを担い、病院はそのバックアップをするかたちになるだろうが、そのとき歯科診療所の果たす役割について今から考えておくべきだ。高齢者については、在宅で介護し、看取る方向に進むだろう。それに伴い歯科の役割は一層大事になる。

発表のなかに ISO が出てきたのが印象深かった。それひとつとっても、世の中がどの分野でもグローバル化に向かっているように感じられる。地域の女性たちが立ち上げた NPO が ISO を取得する時世。歯科開業医が ISO を取るのは当たり前になるだろう。



月崎時央（ジャーナリスト）

思春期の精神科や公衆衛生に興味を持って取材をしてきた。感染症の取材をしたとき、歯科はひどい状態だと耳にした。虫歯は感染症だという理解が必要だと思う。わたしも以前、虫歯は遺伝や事故の類だと思っていた。一般の人たちにも、虫歯が感染症であることをもっと伝えるべきではないだろうか。歯科では、まだ十分に院内感染の対策が整っていない。歯科は唾液や血液を多く扱うのだから感染対策を徹底して当たり前なのに、現状はどうだろうか。

医院の質の判断材料として、類似症例を出して、それに対する各医院のアプローチがわかると審査をする側として判断しやすくなると感じた。



佐藤由美子（パスシステム生活協同組合連合会「くらしサポート推進室」）

医療と一般の人を結ぶ仕事をしてきた。一般の人からは、歯科が何を考えているかが見えにくい。治療を受ける側には分らないことが多くある。たとえば、複数のドクターが同じ病院にいれば、患者の担当をどのように決めているか。妊婦にはどのように接しているか。保険と自費診療の境目をどう決めているか。また、セカンドオピニオンについて実際に自分の患者が他のドクターの話を知りたいと言い出したら、皆さんはどう対応するか。快くレントゲン写真などを複写して送り出せるか（その場でフロアに向かって尋ねたところ、大半の参加者が快く応じると挙手をした）。難抜歯などの高度な医療技術が必要になった場合、紹介する医療機関が決まっているか？このようなことについて患者に情報を発信して欲しい。



会務報告・会務案内

第2回
オピニオンメンバー会議報告

【第2回オピニオンメンバー会議報告】

開催日：平成19年2月25日 午前10時～

場 所：東京歯科大学 水道橋病院（会議室）

出席者：阿部 恵，野村英孝，太田隆温，岡本昌樹，丸山和久，小野義晃，丸山吉弘，加藤 徹，三辺正人，森谷良行，小林 誠，金子信一郎，上浦庸司，薮下雅樹，米山吉洋，渡辺 勝，進 健修，鈴木正臣，田中正大，田村 恵，長岐祐子，長山和枝 23名/36名 委任状提出者11名（以上オピニオンメンバー）

藤木省三，河野正清，杉山精一，伊藤 中，斉藤 仁，成田信一（以上コアメンバー）

事務局：秋元秀俊，小林ひろみ，依田敦子

オピニオンメンバー会議が開催され，会則改正など重要案件が決定された。

まず，代表として藤木省三さんの挨拶のあと，議長に薮下雅樹さんが選出された。書記，議事録署名人に渡辺勝さん，森谷良行さんがそれぞれ決まり，議長の発案により，まず出席者全員の簡単な自己紹介が行われた。

【報告事項】

1. 事業報告

藤木さんより昨年度実施された事業について（ヘルスケアミーティング，オピニオンメンバー会議，コアメンバー会議，基礎コース，歯科衛生士育成プログラム基礎コース，検定コース，Doプロジェクト，調査事業，ニュースレター発行，研究会誌），長岐さんより衛生士シンポジウムについての報告があった。

2. 会計報告（別表参照）

秋元さんより会員数の減少に伴う会費収入の問題が呈示され，それへの対策，今後の見通しなどが語られた。会計監査報告は，監査実施後にオピニオンメンバーリングリスト上で行なわれることとなった。

【協議事項】

議案 1 2007年度事業計画

1) ヘルスケアミーティング

藤木さんから年一回となった秋のシンポジウムについての概要説明がなされた。「若年者20歳迄を対象にして，子供から成人に至る間に私達に何ができるのか」をテーマに外来講師に月星さんをお招きして11月10日，11日の日程で東商ホールで開催されること，シンポジウムに絡めて実施される調査を通して，自分たちのデータを外部へ発信していくこと，子供が何歳の時には何に気をつければよいのかわかる患者本位のガイドライン作りへ向けた意欲的な構想が語られた。

丸山さん，小野さん，渡辺さん，田中さんより発言があった。

2) 基礎コース地方開催

藤木さんより今年度は，外向けに基礎コースという名称をワンデーセミナーに改め，1日コースで費用を安くして，広島，札幌，名古屋で開催するとの報告があった。

3) 歯科衛生士育成コースの継続

河野さんより昨年度の詳細報告とともに今年度の予定が報告された。渡辺さんより地方開催についての打診があった。

4) DO プロジェクト

杉山さんより、今年も調査1（初診患者の実態調査の継続）、調査2（新たなう蝕に関する問題）、調査3（喫煙項目も加えた調査の継続）、調査4（シンポジウムには間に合わないが1年目の追跡調査）を実施し、結果はPOEMなどで外にわかりやすく発信していく旨の報告がなされた。その後、秋元さんよりPOEMの補足説明があり、奥富さん、安田さんより提案があった。

議案2 衛生士部会の設置

藤木さんより歯科衛生士会を衛生士部会という形で組織化する構想が伝えられ、秋元さんが背景説明をおこない、歯科衛生士として長岐さん、長山さん、田村さんたちが、現状と今後の抱負などを語った。その後、小野さんと阿部さんより質問と期待が語られた。

議案3 診療所認証の考え方と認証細則の改定

斉藤さんより、ステップアップガイドを作成し、認証基準を客観的にわかりやすくしたこと、認証制度の変更（再1本化）の経緯説明があった。認証の捉え方を巡る小野さん、金子さんの、エビデンス作りに関する三辺さんの発言があった。

議案4 講師謝礼規定改定

藤木さんより支出削減のために講師謝礼規定を見直す提案がなされ、秋元さんより説明があった。会計監査役として田中さんの意見が述べられた。

他、森谷さんより認証制度について、小林さんより歯科衛生士育成プログラムについての追加質問があった。

最後に、出席者から議案1, 2, 3, 4についての挙手による承認を得て、閉会となった。

(別表) 決算報告

収支計算書総括表

2006年1月1日から2006年12月31日まで

(単位:円)

科目	合計	一般会計	第一特別会計	第二特別会計	第三特別会計
【経常収入の部】					
入会金収入	395,000	0	395,000	0	0
会費収入	16,765,000	16,765,000	0	0	0
事業収入	17,678,345	0	0	9,470,500	8,207,845
雑収入	168,051	82,826	81,980	3,000	245
経常収入合計	35,006,396	16,847,826	476,980	9,473,500	8,208,090
【経常支出の部】					
事業費	30,136,217	9,034,044	182,176	13,315,109	7,604,888
管理費	10,052,070	6,755,700	88,315	1,703,218	1,504,837
経常支出合計	40,188,287	15,789,744	270,491	15,018,327	9,109,725
経常収支合計	△ 5,181,891	1,058,082	206,489	△ 5,544,827	△ 901,635
【その他資金収入の部】					
その他資金収入合計	0	0	0	0	0
【その他資金支出の部】					
固定資産取得支出	0				
その他資金支出合計	0	0	0	0	0
当期収支差額	△ 5,181,891	1,058,082	206,489	△ 5,544,827	△ 901,635
前期収支差額	65,054,469	62,818,652	△ 1,822,811	△ 5,822,600	9,881,228
次期繰越収支差額	59,872,578	63,876,734	△ 1,616,322	△ 11,367,427	8,979,593

収支計算書

2006年1月1日から2006年12月31日まで

一般会計 (単位:円)

科目	決算額	前年度決算額
【経常収入の部】		
会費収入	[16,765,000]	[21,157,000]
歯科医師	14,645,000	17,958,000
歯科衛生士他	540,000	1,254,000
法人会員	1,500,000	1,900,000
購読会員	80,000	45,000
雑収入	[82,826]	[348,826]
雑収入	82,826	348,826
経常収入合計	16,847,826	21,505,826
【経常支出の部】		
事業費	[9,034,044]	[16,945,243]
会議費	1,762,466	3,160,633
通信運搬費	1,529,043	1,981,614
印刷製本費	106,510	0
雑費	0	22,112
Newsletter制作	3,583,290	3,600,000
会誌制作費	0	2,795,326
運送・通信事務	4,480	55,760
HP情報管理運営	580,340	875,500
会員配布資料	454,490	514,900
会議、役員交通費	10,000	291,460
自主研究費	1,003,425	3,647,938
管理費	[6,755,700]	[7,412,993]
会議費	0	33,120
通信運搬費	332,128	263,274
事務設備費	579,584	582,859
事務用品費	133,565	120,914
印刷製本費	310,150	546,000
委託費	268,800	140,700
雑費	599,527	1,455,561
事務局費	4,531,946	4,270,565
経常支出合計	15,789,744	24,358,236
経常収支差額	1,058,082	△ 2,852,410
【その他資金支出の部】		
固定資産取得支出	[0]	[270,820]
什器備品購入支出	0	270,820
その他資金支出合計	0	270,820
当期収支差額	1,058,082	△ 3,123,230
前期繰越収支差額(2005, 2004)	62,818,652	65,941,882
次期繰越収支差額(2007, 2006)	63,876,734	62,818,652

収支計算書

2006年1月1日から2006年12月31日まで

第二特別会計 (単位:円)

科目	決算額	前年度決算額
【経常収入の部】		
事業収入	[9,470,500]	[15,152,000]
認証ミーティング	615,000	30,000
(4回)		(3回)
認証ミーティング	220,500	0
(5回)		
基礎コース	1,875,000	5,000,000
(東京, 大阪)		(11, 12回)
2006ヘルスケアミーティング	3,638,000	9,312,000
(9, 10回シンポ)		
DH育成基礎、検定コース	2,380,000	0
その他のコース	(742,000)	(810,000)
DHシンポジウム	742,000	0
診療所づくりミーティング	0	408,000
ファシリテータートレーニング	0	144,000
スタッフミーティング	0	258,000
雑収入	[3,000]	[10,000]
雑収入	3,000	10,000
経常収入合計	9,473,500	15,162,000
【経常支出の部】		
事業費	[13,315,109]	[23,658,971]
認証ミーティング	1,230,016	46,000
(4回)		(3回)
(5回)		
基礎コース(12回)	5,000	0
基礎コース	2,257,199	4,257,578
(東京, 大阪)		(11, 12回)
2006ヘルスケアミーティング	5,587,960	18,621,673
(9, 10回シンポ)		
DH育成基礎、検定コース	3,206,399	3,330
(DH卒後教育)		
その他のコース	(768,905)	(730,390)
DHシンポジウム	768,905	0
診療所づくりミーティング	0	231,090
ファシリテータートレーニング	0	257,149
スタッフミーティング	0	242,151
その他会議費	151,520	0
管理費	[1,703,218]	[1,735,304]
事務局費	1,703,218	1,735,304
経常支出合計	15,018,327	25,394,275
経常収支差額	△ 5,544,827	△ 10,232,275
当期収支差額	△ 5,544,827	△ 10,232,275
前期繰越収支差額(2005, 2004)	△ 5,822,600	4,409,675
次期繰越収支差額(2007, 2006)	△ 11,367,427	△ 5,822,600

収支計算書

2006年1月1日から2006年12月31日まで

第一特別会計 (単位:円)

科目	決算額	前年度決算額
【経常収入の部】		
入金収入	[395,000]	[801,000]
歯科医師	365,000	675,000
歯科衛生士他	30,000	126,000
雑収入	[81,980]	[81,500]
雑収入	81,980	81,500
経常収入合計	476,980	882,500
【経常支出の部】		
事業費	[182,176]	[3,361,839]
印刷製本費	155,000	
会員配布資料	27,176	260,709
会員名簿		3,101,130
管理費	[88,315]	[89,939]
事務局費	88,315	89,939
経常支出合計	270,491	3,451,778
経常収支差額	206,489	△ 2,569,278
当期収支差額	206,489	△ 2,569,278
前期繰越収支差額(2005, 2004)	△ 1,822,811	746,467
次期繰越収支差額(2007, 2006)	△ 1,616,322	△ 1,822,811

収支計算書

2006年1月1日から2006年12月31日まで

第三特別会計 (単位:円)

科目	決算額	前年度決算額
【経常収入の部】		
事業収入	[8,207,845]	[9,070,010]
企画商品	8,207,845	9,070,010
雑収入	[245]	[300]
雑収入	245	300
経常収入合計	8,208,090	9,070,310
【経常支出の部】		
事業費	[7,604,888]	[7,171,160]
企画商品	7,604,888	7,171,160
管理費	[1,504,837]	[1,038,566]
租税公課		200
雑費	28,715	1,417
事務局費	1,476,122	1,036,949
経常支出合計	9,109,725	8,209,726
経常収支差額	△ 901,635	860,584
当期収支差額	△ 901,635	860,584
前期繰越収支差額(2005, 2004)	9,881,228	9,020,644
次期繰越収支差額(2007, 2006)	8,979,593	9,881,228

2006 ヘルスケアミーティング収支計算書 (2006.11.18-19)

収入の部	金額	支出の部	金額
会員歯科医師	1,246,000	会場機材設営費	2,488,377
会員スタッフ	1,187,000	広告宣伝費	281,400
非会員歯科医師	246,000	講師謝礼・旅費	1,036,505
非会員スタッフ	72,000	印刷通信事務費	230,895
その他	77,000	人件費	256,200
法人	450,000	弁当代	629,607
お弁当	132,000	交通費	8,720
懇親会	228,000	懇親会	649,912
		会議費	6,344
計	3,638,000	計	5,587,960
収支差額	△ 1,949,960		

歯科衛生士育成プログラム (2006.7.29-30,9.23-24,10.21-22,12.9-10)

収入の部	金額	支出の部	金額
基礎コース	2,100,000	会場機材設営費	126,556
検定コース	250,000	広告宣伝費	3,500
オブザーバー	30,000	講師謝礼・旅費	2,673,580
		印刷通信事務費	127,013
		人件費	5,250
		交通費	270,500
計	2,380,000	計	3,206,399
収支差額	△ 826,399		

監 査 報 告 書

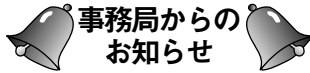
平成 19 年 3 月 8 日

日本ヘルスケア歯科研究会
コアメンバー会議 御中

日本ヘルスケア歯科研究会

監事 鈴木正 監印
監事 田中正大 監印

私どもは、日本ヘルスケア歯科研究会の平成 18 年 1 月 1 日から平成 18 年 12 月 31 日までの平成 18 年度下記の計算書類について監査を行った。



会費の支払い方法について

～新たに銀行口座への振り込みが可能に！～

インターネットバンキング、銀行 ATM、コンビニ ATM (店舗により取り扱い金融機関限定あり) を利用して手続きが容易にできるようになりましたので、ご利用ください。また、従来どおりの郵便振替用紙でも受け付けています。

【要領】 振込人氏名欄に正会員氏名を記載、または入力。
※一回の振込で複数の支払いをするときは、別途ファックスまたは、メールでご連絡ください。

【振込先銀行】
三菱東京 UFJ 銀行 江戸川橋支店 普通 0931013
口座名：日本ヘルスケア歯科研究会 代表 秋元秀俊

※銀行お振込の場合、お振込手数料は振込人のご負担となりますのでよろしくお願い致します。

●会員登録内容の変更について

住所、電話番号、ファックス番号、e-mail アドレス、準会員等の追加・変更がありましたら、事務局までファックスもしくは e-mail でお知らせください。

Fax: 03-3260-4906
e-mail: center@healthcare.gr.jp

事務局は月曜日から金曜日までの午前 9 時 30 分から午後 5 時 30 分までスタッフが常駐しています。お電話は時間内をお願いします。

〈ウイステリア Pro〉 WindowsVista での動作

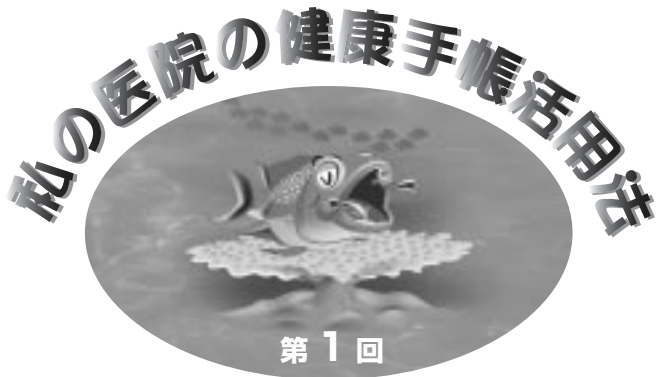


FileMakerPro8.5 のアップデートがリリースされたので、WindowsVista でのファイルメーカーは動作可能になりましたが、〈ウイステリア Pro3.1.1〉は現在事務局にて動作確認がとれておりません。したがって〈ウイステリア Pro3.1.1〉の推奨環境は、Windows2000 および XP となります。ご注意ください。

注) 旧バージョンのファイルメーカーは未対応です。
(ファイルメーカー社ホームページ参照：
<http://www.filemaker.co.jp/developers/resources/vista.html>)

現在の会員の構成(4月25日現在) 会員合計 5,331名

正会員		準会員	
歯科医師	1,659名	歯科衛生士	3,020名
歯科衛生士	163名	歯科技工士	86名
歯科技工士	1名	その他	356名
その他	10名	準会員計	3,462名
学生	0名		
法人会員	36社		
正会員計	1,869名		



杉山精一（八千代市開業・コアメンバー）

簡単に、低コストで、医院の独自性も入れることができ、研究会のコンセプトも盛り込んで、という様々な要求を同時にかなえてくれる「患者さんとの情報共有化ツールが欲しい！」との思いが以前からありましたが、なかなか実現できませんでした。しかし、今回の研究会オリジナル健康手帳は、この要望をすべて実現することができます。私の医院では昨年8月からバインダー式健康手帳を導入してメンテナンス患者全員に渡しています。今年の3月までにすでに1,400冊余を渡し、患者さんからも好評、スタッフもこれならいいと納得して、医院のシステムにしっかりと位置づけることができました。

このバインダー式「健康手帳」の特徴はさまざまにカスタマイズすることができることです。今回は私の医院での導入事例を紹介し、今後各医院での事例をニュースレターに連載していきます。皆さんも連載を参考にしてぜひ健康手帳を使ってください。

導入まで

健康手帳導入にあたっては、まず、院内ミーティングで全員から導入する場合の問題点や疑問点をあげてもらいました。

問題点としては

- 1) 誰に渡すか？
- 2) 渡すタイミングは？ どうやって渡す？
- 3) 患者さんはいつ持ってくるの？
- 4) 何をプリントするか？
- 5) 誰がいつプリントするか？
- 6) 患者さんがまた持ってきてくれるか？
- 7) かさばる、楽しくない、字が小さい、内容を読まないのでは
- 8) 紛失時はどうする？
- 9) 費用がどれくらいかかる？

誰に渡すか？

当初は全員に渡すことを考えていましたが、まずは治療が終了してメンテナンスをスタートできる患者さんとししました。これは私の医院の現状が初診患者のうち予定どおり終了できる方が約半数のため、中断する方よりメンテナンスにつながる方のほうが効果的であると考えて優先することにしました。またすでにメンテナンス来院者の数も多いのでこちらの方に配布すること、スタッフの仕事量との兼ね合いも考えました。

誰が、いつ渡すか？

メンテナンスをスタートする方、メンテナンス中の方を配布対象としましたが、導入開始から4ヵ月程は1ヵ月に配布する冊数は300冊にもなります。

この期間を乗り切る準備が必要となります。

担当歯科衛生士は、事前に予約表で自分の担当患者を調べて、健康手帳を準備することにしました。

何をいつ印刷するか、渡したかのチェックは？

今までに撮影した口腔内写真、歯周組織検査結果（初診時、再評価、最新）、カリエスリスク検査結果を印刷することは当初から決めていましたが、スタッフと協議して、表紙を作って印刷することにしました。患者さんの名前を手書きするのは結構面倒な作業です。字を失敗したら一冊無駄にしまいます。そこでデータ管理ソフトを手直しして、患者番号、患者名、担当者を印刷する表紙を作成しました。さらに今後のメンテナンスの時期と内容を書き込む欄も作成し、ここは数字だけとして手書きで記入、メンテナンス内容はチェックを入れるだけですむようにしました。



検査結果を説明した後、綴じて渡す。

今までは、葉書での通知でしたから、自分のメンテナンス時期を忘れての問い合わせや、葉書が届かなかったなどのクレームが時々ありましたが、この方式で



口腔内写真もプリントして綴じ込む。



作成した表紙



チャート図

これらをバックアップするシステムが実現できませんでした。また、メンテナンスは基本的に1回で終了するようにしているので、写真撮影やレントゲン検査など通常のメンテナンスワーク以外の追加項目が入る場合は時間を長めにする方式にしていますが、その情報も記載できるようになったので、患者さんも終了時間がわかり、安心して来院できるようになりました。

当初の4ヵ月間は印刷量が膨大となるため、チェアサイドの各コンピューターにすべて小型プリンターを設置して、いつでもどこでもプリントできる体制を整えました。

また、スタートしてすぐに気づいたのですが、誰に配布済かの記録も必要ですので、これは表紙をプリントすると自動的にチェックが入る仕組みを作りました。結果的にこれを検索することによって配布枚数をカウントすることができるようになりました。

印刷用紙と穴開けパンチ

印刷用紙はA6用紙が適当ですが、市販ではA6用紙(105×148mm)はほとんど見つかりません。コストを安くおさえないのであればネット通販など(A6用紙で検索)で購入すると思います。私の医院では、フジフィルムがA6の写真用紙を販売していたので(フジフィルムネット通販*)、少々コストが高いのですが、これを採用しています。少し小さくてもよければ葉書サイズが使えます。また、エプソン*2のKGサイズ(102×152mm)も使えるようです。

A6印刷が可能なプリンターはHP(日本ヒューレットパッカード)*3なのですが、KGサイズならばエプソンを使うこと*4ができます。

印刷した用紙をバインダーに綴じるには穴開け器が必要です。これはアスクル*5で購入できます。

配布費用は？

私の医院では無料にしています。以前に医歯薬出版の手帳を使ったことがあるのですが、費用負担の説明の手間、患者さん側の費用を払って手帳を使うことへの理解が難しくて軌道にのりませんでした。家族ぐるみでの来院者も多いので費用負担の問題は重要です。バインダー式手帳の特徴はなんと言っても「安い!」ということです。1冊200円なら、メンテナンスを継続する方へのコストとしては問題なく、メリットのほうが大きいと判断しました。導入当初は配布冊数やプリンター設置などで一時的にコストがかかりますが、軌道にのればランニングコストは毎年新たにメンテナンスを開始する方の人数分の手帳と用紙、インク代くらいですすからたいしたことはありません。スタッフも費用負担の説明をしないで渡せるので気が楽になるように思います。

患者さんの反応は？

メンテナンスに入る際に初診と再診の検査結果を比較してそれを持ち帰ってじっくり見ることができる、また、すでにメンテナンスが長い方、特に子供の場合は成長の記録ともなって保護者の方もいっしょに楽しんでいただいているように感じています。すでに最初に配布した方がメンテナンスに来ていますが、忘れずに持ってきてくれる方が約半数です。今後は、リコール通知の葉書に目立つように記載するなどして、手帳を持ってメンテナンスに来院するをことが習慣化するようにしていくことが課題です。



🍏 口腔内写真の印刷

*1 オンラインショップフジフィルムモール：<http://fujifilmmall.jp/shop/c/c/>

*2 エプソン OA サプライ NETSHOP：<http://epson-supply.jp/cgi-bin/eaas/ec/b2c/home.do/>

*3 HP(日本ヒューレットパッカード)：<http://welcome.hp.com/country/jp/ja/welcome.html/>

*4 エプソン対応機種：<http://www.epson.jp/products/supply/shoumouhin/#>

*5 アスクル：<http://www.askul.co.jp/>

※白紙用紙(上質紙)は事務局でも頒布しています。お問い合わせください。

歯科衛生士 育成 プログラム

歯科衛生士育成プログラム 第2期生(2007年)募集!

休祭日6日間の診療実習コース
各回5~10人のインストラクターが
手取り足取りのサポート

「健康を守り育てる歯科診療」=ヘルスケア歯科診療を実践していくにあたり、ヘルスケア歯科診療に必要とされる、知識・技術・コミュニケーションスキルを獲得して、ヘルスケア歯科診療において、歯科衛生士業務を完遂できる、ヘルスケア歯科衛生士が不可欠と考えられます。

そのようなヘルスケア歯科衛生士を育成するためのプログラムを育成基礎コース、検定コース、の二つのコースで行います。

歯科衛生士育成プログラムは、河野正清など歯科医師講師とともに、各回5~10名のインストラクターが手取り足取りの指導をします。5日目のSRPのスキルとシャープニングの回には外部講師としてSRPの指導経験豊富な佐々木妙子さんが担当します。



【略歴】

歯科衛生士

東京歯科大学歯科衛生士学校卒業

フリーランサーとして歯周病の予防処置を行いながら、歯科衛生士の臨床セミナーを勤める。

東京歯科研究会講師として、歯科衛生士のための臨床セミナーならびに歯周病セミナーにおいて歯科医師のためのスクーリング実技指導を20年間担当。

【主な著書】

歯科衛生士のためのクリニカルインストルメンテーション(クインテッセンス出版 2005年)

外部講師

佐々木妙子さん

育成基礎コース ヘルスケア歯科衛生士として最低限要求される技術、知識、システム構築について学ぶ

日程： 1/2日目 7月15日(日)、16日(月・祝)
3/4日目 10月7日(日)、8日(月・祝)
5/6日目 11月3日(土・祝)、4日(日)

会場： 都内歯科衛生士専門学校

プログラム： 1日目 システム構築とデータ管理法(ヘルスケア歯科診療を実践するためのシステム構築の全体像とデータ管理法について)
2日目 口腔内写真撮影実習と歯周組織検査実習
3日目 歯周病とカリエスの病因論、コミュニケーションスキル
4日目 患者説明の内容と要領、カリエスリスクアセスメント
5日目 S.R.P.(S.R.Pの技術的スキル、シャープニング、S.R.Pの評価法)
6日目 再評価とメンテナンスプログラム

受講費： 100,000円

検定コース

このコースは、すでにヘルスケア歯科診療を実践できている診療所において、ヘルスケア歯科衛生士として実際に臨床を行っている歯科衛生士が、認定衛生士として認定されるためのコースです。

日程： 9月16日(日)、17日(月・祝)

会場： 都内歯科衛生士専門学校

受講費： 25,000円

※ 育成基礎コースおよび検定コースを受講する歯科衛生士が勤務する診療所の院長は、検定コースに参加すること必要があります。ただし検定は行いません。

※ 詳しくは歯科衛生士育成プログラムパンフレットをご参照ください(ニュースレター Vol.10 no2 に同封)。

祝「ヘルスケア歯科衛生士」認定！

第1回歯科衛生士育成プログラムにおいて以下の11人の方がヘルスケア歯科衛生士として認定されました。おめでとうございます。

【認定合格者】

- 検定コースから
井上 和 / 長野のみ子 / 秋田美穂子
- 基礎コースから
金子寛美 / 岡村美佳 / 田中奈美 / 曾根智世 / 円谷綾子 / 向井郁子 /
佐々木かおり / 葛西智美（敬称略順不同）



認定証とバッジ

※「ヘルスケア歯科衛生士」認定要件として口腔内写真撮影検定，歯周組織検定検査，課題レポート提出があります。今回の検定で不合格となった方は，第2期プログラムにおいて，再検定を行います。

-
-
-
-
-
-
-
-
-
-

..... 第1期

2006年 7月 29・30日

9月 23・24日

12月 2・3日

.....

実習と講義の様子

その他催しもの案内

中国四国ヘルスケアグループ主催 第2回中国四国ヘルスケアスタッフミーティング

中国四国 HC スタッフミーティング代表 太田隆温
世話人：浅笠尚人，木村幸司，木村秀仁，竹下 哲，中尾勝彦
浪越建男，原 博章，足本 敦

日 時：2007年 10月 14日（日）10:00 a.m.～4:30 p.m.

会 場：岡山ロイヤルホテル（昨年と同じ会場です）

参加費：歯科医師：12,000円（昼食込）

スタッフ：4,000円（昼食込）

プログラム（予定）

10:00～11:20 テーマ1

小児の健全な口腔育成（責任者：未定）マイナス1歳からのむし歯予防、MFT、地域での取り組み、リスク検査など

11:30～13:20 ランチ & 懇親会

13:20～14:40 テーマ2

歯周治療・メンテナンス（責任者：未定）新人歯科衛生士が取り組む歯周治療、禁煙支援、深いポケットを残したままのメンテナンス、根面カリエスへのケアなど

14:55～16:15 テーマ3

診療室のメンテナンス（責任者：未定）新人教育プログラム、スタッフが長く続けるために、医院の継続的向上を目指すためになど

16:15～16:30 総括

テーマでとりあげる内容などの詳細は未定ですが、以上のテーマで地域診療室からの発表とディスカッションを予定しています。6～7月頃に参加・発表申し込み用紙を送付しますので、多くのお参加をお願いいたします。

お問い合わせ：ワイエイオーラルヘルスセンター内 担当：足本

TEL. 0859-37-6886 FAX. 0859-37-6887

e-mail yaohc@ms3.megaegg.ne.jp

歯科衛生士法の改正を求める請願署名について

秋元秀俊（会員・医療ジャーナリスト）

○ 歯科衛生士法読み違えとその背景

歯科衛生士という資格は、保健衛生状態が劣悪で、歯は年を取ったら抜けるものと信じられていた時代（昭和23年）に、主に保健所で予防処置を業務とする専門職としてスタートしました。その後（昭和30年）、診療の補助が業務に加えられたものの、この後25年くらいの間、わが国の歯科診療所では歯科衛生士と助手の仕事と同じように捉える傾向が根強く残っていました。そして歯科衛生士が助手以上の仕事をすると歯科医師の仕事が奪われるという歯科医師中心の偏狭な考えが今もあります。幾人ものスタッフを雇用しながら歯科衛生士を雇わない歯科医院では、そのような考え方が珍しくありません。

おそらくそうした意識を反映して、歯科衛生士法の読み違えが起こっています。その結果、歯周病の患者さんの治療と再発予防にとってもっとも有効で重要な処置、すなわち歯根表面の沈着物を除去してきれいにする処置や歯周組織の検査（ポケットプロービング検査）が一部の地域で誤って制限される事態が生じています。

そこで歯周病やう蝕の予防と治療に歯科衛生士が果たす役割の大きさを認識し、そうした考えを普及する努力をしてきた日本ヘルスケア歯科研究会では、歯科衛生士が歯科医師の下で、患者さんのプラークコントロールを専門的な技術でサポートする仕事が胸を張ってできるように、歯科衛生士法の第2条（歯科衛生士の業務範囲）の速やかな改正を厚生労働大臣に求める陳情署名を行います。参議院議員選挙前なので、国会請願の方が有効ですが、本会は原則として政治的に中立ですので、政治プロセスに関係する活動は避け大臣陳情とします。

○ 歯科衛生士法の業務範囲について

歯科衛生士法（以下「衛生士法」）が昭和23年に制定された時点では、歯科衛生士は予防処置を行う専門技術者と規定されていましたが、昭和30年に改正され業務に診療の補助が加わりました。ところが、歯科では、歯科衛生士に認められた診療補助の業務範囲と無資格者の診療補助を混同してきたために、歯科衛生士の診療補助の範囲を著しく狭く限定する誤解があります。歯科衛生士法の第2条は最初に予防処置を掲げ、その内容を詳細に限定しているため、2番目の診療補助の意味するところを狭く考える誤解を生みがちです。

「診療の補助」とは、保健師助産師看護師法で「療養上の世話または診療の補助」が看護師または准看護師でなければできないとされている規定（保助看法第5、6条）の例外規定として歯科診療の補助に限って歯科衛生士の業務としたものです。

○ 刑法の違法性阻却事由

少し難しいですが、法律上の説明をします。

医師や歯科医師が患者さんのからだをメスで傷つけ、あるいは薬物を投与することは、ちょっと意外でしょうが、刑法上は違法行為です。ただし法令（医師法、歯科医師法など）によって、目的が医学的に正当で手段が適切で、その行為によって患者さんが失う利益よりも得る利益が多いと想定され、患者さんの理解があるときに違法性はなくなります（刑法35条の正当行為：目的の正当性、手段の相当性、法益の衡量、患者の承諾による違法性の阻却）。医師と歯科医師以外では、保健師助産師看護師法で診療の補助が定められ、さらにその例外規定が衛生士法第2条二項の2です。さらに「歯科医師の指示」がなければ危険な診療の補助をしてはならないこと（第13条の2）が確認されています。いわゆる医行為のカテゴリーにあって、患者に危害を加える恐れのある大きな行為（絶対的医行為）は、この診療補助に含まれません。絶対的医行為の範囲は、時代によって変化するグレーゾーン（最近では平成14年の局長通知で、看護師の静脈注射は絶対的医行為ではないと変更されました）ですが、厚労省では①歯の切削②切開や抜歯などの観血的処置③精密印象を取ることや咬合採得④歯石除去術のための鎮痛処置を除いた薬剤の皮下注射や筋肉注射としています（別の法律によりX線撮影を診療補助とすることはできません）。すなわち歯科医師の指示（直接の指導ではない）があるならば、スケーリング・ルートプレーニングや検査などは診療の補助として認められます。これまでの厚生労働省の見解もほぼこのようなものです。

ところが、衛生士法の業務の規定が、刑法の違法性阻却規定であることに理解が及ばず、歯科衛生士の業務範囲を著しく限定する無理解が歯科医師および厚生労働技官のあいだに生じています。とくに衛生士法第2条の1において「歯科医師の直接の指導の下に」予防処置としてできることを列挙していますが、それを取り上げて、それ以外の行為を禁止するように解釈する向きがあります。

○ 治療だけでなく、予防でも（直接の指導の下ではなく） 歯科医師の指示でよい

歯科衛生士法は、昭和 23 年に施行されましたが、当時歯科衛生士の教育は 1 年制で、歯周病の病因も明らかではなく、ブラークコントロールを中心とした治療概念もまったくありませんでした。予防処置として「正常な歯茎の遊離縁下の付着物及び沈着物を機械的操作によって除去すること」が挙げられていますが、現在では、むしろ浅い歯肉溝内のインスツルメンテーションは歯石を触知した場合だけに推奨される処置です（資料の B）。

また第 2 条では、「歯科医師の直接の指導の下に」とされており、これは昭和 23 年当時、予防処置を限定するために用いられた文言。診療の補助については、「歯科医師の指示」が求められるのですが、一部には診療補助にまでこの条件（直接の指導の下）を拡大解釈する傾向があります。歯科衛生士教育が 2～3 年となった今日、予防的なインスツルメンテーションについては、危害を加える恐れが極めて小さく「歯科医師の直接の指導の下に」と限定する必要はありません。

政府は、健康増進法にもとづく国民健康づくり運動「21 世紀における国民健康づくり運動（健康日本 21）」において定期的な歯石除去や歯面清掃を受ける人の増加を掲げています（ベースライン 55～64 歳の 15.9%が 5 年で目標値の 30%を超え 43.2%に達した）。日本ヘルスケア歯科研究会では、診療所における専門的なメンテナンスケアを普及させる活動とともに、それがどのように患者さんの健康に寄与するか成果を集めて報告しています。さらに本会では、臨床経験のある歯科衛生士に実習教育を行い厳しい実地検定によって歯科衛生士の臨床能力の向上にも努めているところです。

また特定非営利活動法人日本歯周病学会の歯周病認定歯科衛生士制度では、歯周病患者の治療例の症例報告（いうまでもなく歯科衛生士による検査、診断、治療行為がなければ治療例は報告できない）を認定要件として求めています。

衛生士法は、こうした実状を踏まえ、歯科衛生士の業務を患者本位に改め、また業務について間違った解釈が広まらないように積極的にその役割を掲げるべきです。



資料

A 歯科衛生士法

第十三条の二 歯科衛生士は、歯科診療の補助をなすに当っては、主治の歯科医師の指示があった場合を除くほか、診療機械を使用し、医薬品を授与し、又は医薬品について指示をなし、その他歯科医師が行うのでなければ衛生上危害を生ずる恐れのある行為をしてはならない。ただし、臨時応急の手当てをすることは、さしつかえない。

第二条 この法律において「歯科衛生士」とは、厚生労働大臣の免許を受けて、歯科医師（歯科医業をなすことのできる医師を含む。以下同じ。）の直接の指導の下に、歯牙及び口腔の疾患の予防処置として次に掲げる行為を行うことを業とする女子をいう。

- 一 歯牙露出面及び正常な歯茎の遊離縁下の付着物及び沈着物を機械的操作によって除去すること。
- 二 歯牙及び口腔に対して薬物を塗布すること。
- 2 歯科衛生士は、保健師助産師看護師法（昭和二十三年法律第二百三十三号）第三十一条第一項及び第三十二条の規定にかかわらず、歯科診療の補助をなすことを業とすることができる。
- 3 歯科衛生士は、前二項に規定する業務のほか、歯科衛生士の名称を用いて、歯科保健指導をなすことを業とすることができる。

B 正常な歯肉縁下のインスツルメンテーションについて

1980 年代前半の一連の研究 (Knowles *et al.* 1979, Badersten *et al.* 1981, Pihlström *et al.* 1983, Lindhe *et al.* 1984) によって、3mm 以下のプロービング値で出血のない部位、すなわち正常な歯肉の遊離歯肉縁下のインスツルメンテーションは、付着の喪失を生じる危険があることが明らかにされ、歯周病学的には推奨されない (総説 Lindhe J, Nyman S and Karring T: Scaling and root planing in shallow pocket. *J Clin Periodontol* 1982)。

ヘルスケア フォーラム

広島ワンデーセミナーに参加して

木村幸司（高松市開業）

3月11日（日）広島県歯科医師会館にて中国地方で初めてのワンデーセミナー（基礎コース改め）が開催されました。

当日は、約150人の歯科医師、スタッフの参加があり会場一杯となりました。今回は会員でない方の参加もオーケーということだったので、冒頭手を挙げてもらったところ四分の一ぐらいの方がまだ未入会ということでした。参加者はみな非常に熱心に、講師の講演内容のメモを



竹下 哲さん

取り、期待の高さが感じられました。

午前中は、杉山精一さんから「健康を守り育てる歯科医療」の概念と行動について、足本 敦さんから「ペリオドントロジー、カリオロジーに基づく臨床について」午後からは、午前に引き続いて足本さんから「喫煙について」最後は、認定診療所である竹下 哲さんから「ヘルスケアとの出会いから現在まで」について、とても聴きやすい講演でした。

私も（高松市開業）、可能な限りスタッフと研修会に参加するようにしていますが、東京となると毎回スタッフ全員で… というわけにはいきません。それが広島を皮切りに札幌、名古屋と続く今回のワンデーセミナーで、身近にヘルスケ



会場の様子

ア活動をしている医院があるのだということを知ること、そしてヘルスケアを実践している先生からライブで話を聴くことは、何冊も本を読む以上の価値があるなあと感じました。

最後には、サプライズとして藤木省三さんが症例を発表し、長期症例からカリエスフリーとなっていく口腔内写真を見て、充填物のない口腔の美しさを改めて実感いたしました！

今年10月14日（日）には、第2回中国四国ヘルスケアスタッフミーティングを岡山ロイヤルホテル（昨年と同じ会場です）で開催いたします。現在企画進行中です！ 非常に有意義なミーティングになると思いますので、多くの方の参加をお願いいたします。



その他催しもの 案内

東京 HCG 主催 第3回スタッフミーティング

担当責任者：落合真理子 野村千里 鈴木正臣 岡本昌樹

「東京ヘルスケアグループ主催の、第3回スタッフミーティングを開催いたします。いつも私たちが大切にしている「予防」ですが、予防となると患者様とは長いお付き合いになりますよね。そんな中で見えてきた「症例検討」が今回のテーマです。

症例検討… と言っても、そんなに難しく考えないでください！ 午前には歯科衛生士さんの発表から、皆さんが日々、診療の中で、気付いたこと、考えていること、大切にしていることをお話しませんか？ また、悩んでいることや「自分ならこうする！」ということも、ぜひこの機会に教えてください。午後は歯科衛生士さん・受付さんペアの発表です。予防とは「チーム医療」と言われますが、助手さんや、受付さんがどのようにいつもチームに関わっているのか、そんな視点からの症例発表です。各発表の後はスモールグルー

プでのディスカッションを予定しています。少しでも、翌日の診療へのヒントが得られるような楽しい企画を考えております。医院も職種も経験も違う仲間たちと充実した一日を過ごしませんか？ 皆さんの参加をお待ちしております！

日 時：2007年7月1日（日）10:00 a.m.～4:30 p.m.（予定）
会 場：川口市民ホール フレンディア
JR川口駅東口駅前 キュポ・ラ本館棟4
TEL. 048-227-7603 <http://www.friendia.jp/access.html>

定 員：120名
参加費：8,000円（昼食込み）
申込方法：お名前（フリガナ）、職種、経験年数、歯科医院名、連絡先の郵便番号、住所、TEL/FAXを明記のうえ、岡本昌樹（masaki-o@d5.dion.ne.jp）またはFAX（おかもと歯科医院 0282-55-7063）までご連絡ください。
申込期限：6月4日

共催の催し物 案内

日本ヘルスケア歯科研究会は、関西ウェルビーイングクラブの設立を機会に、NPO 法人ウェルビーイングと合同セッションを開催します。

NPO 法人ウェルビーイング 日本ヘルスケア歯科研究会 関西ウェルビーイング 合同セッション！「臨床予防歯科のこれからを考える」

—関西ウェルビーイングクラブ (KWC) NPO 法人設立記念大会—

主催：関西ウェルビーイング

関西ウェルビーイング (KWC) は、地域と住民の Well-Being を求めて NPO の設立をいたします。
私たち開業医は、歯科保健や予防活動を通じて地域や住民のより良い姿を求め、今後どのような視座の基、臨床予防歯科を発展させてゆけばよいのでしょうか。本企画は、日本の予防歯科を支えてきた組織が協働し、活動の情報共有と参加者との意見交換を深めながら、これからの臨床予防歯科の姿を探り当てる事を目標として開催致します。協働する中で視野を広め、そのあり方や方向性を確認して頂ければ幸いです。是非、ご参加下さいませよう、ご案内申し上げます。

日 時 2007 年 **6 月 10** 日 (日) 10:00 a.m. ～ 4:00 p.m. (受付 9:30 ～)

会 場 大阪産業創造館 4F イベントホール (大阪市中央区)
大阪市中央区本町 1-4-5 (<http://www.sansokan.jp>)
地下鉄堺筋線 堺筋本町駅下車 12 番出口 本町通りを東へ徒歩 5 分 (東警察署向い)

定 員 140 名

セッション **風は外から吹いている—臨床予防歯科のこれから—**

～ 協働の時代の地域と歯科医院のあり方、住民と歯科医療者の関係性、
社会のニーズと臨床予防歯科についてのこれからの探る。 etc. ～

セッションメンバー

国立保健医療科学院： 安藤雄一さん
NPO 法人ウェルビーイング： 西本美恵子代表、中村譲治さん、藤田孝一さん
日本ヘルスケア歯科研究会： 藤木省三代表、杉山精一さん、近藤明德さん
関西ウェルビーイングクラブ： 文元基宝代表、福原稔さん、大橋正和さん

参加費 一律 3,000 円 (お弁当 1 個 1,000 円 希望者のみ)

申込方法 メール件名を「セッション参加」とし、お名前、職種、勤務先名、ご住所、Tel/Fax、メールアドレス、お弁当申込の有無をご記入のうえ、下記アドレスまでご連絡ください。お申し込み後、事務局より振込先をお知らせします。
1 メール 1 名で送信ください。

お申込み、お問い合わせ： gabu@zvtv.ne.jp (KWC 津田 真)

申込期限： **5 月 25 日**

書評

田村 恵 (歯科衛生士・河野歯科医院)

『歯科衛生士のための 話せる・わかりあえる コミュニケーション事始め』

著者；阿部 恵
出版；クインテッセンス出版
2007年3月
定価；3,150円 (税込)



みなさんは「コーチング」ってご存知ですか？ 教育者や医療従事者にはコーチングのスキルが必要とされながら、私自身「コーチング」を意識しはじめたのは、ほんの数年前です。もう、13年も歯科衛生士をやっているのに…

ヘルスケア型歯科診療を実践していくうえで患者さんとの良好なコミュニケーションが重要であることはわかっていても、なんだか押し付けの指導になってしまったり、目の前の患者さんが何を考えているのか分からない、なんて感じることもありませんか？ そんなときこそコーチング！ この本の前半では予防、ヘルスケア型診療を行ううえで、なぜ私たちにコーチングのスキルが必要であるか分かりやすく伝えてくれています。

後半はコーチング実践編、患者さんとのやりとりで悩む歯科衛生士が患者さんを4つのタイプに分け、コーチングにチ



ャレンジしていく様子がマンガで書かれています。特に初診の時点で患者さんをタイプ分けするのは難しいですよね？ そこで、この本にはタイプ判別チェックポイントも載っていますので試してみる価値あります。

あっという間に読み終えることのできる本ですから文章を読むのが苦手なあなたも大丈夫。読み終わったときにはもっとコーチングを学びたい！ と思うはずです。そして阿部先生はこの後どんな本を読めばいいか推薦までしてくれていますよ。



その他催しもの 案内

東京 HCG 主催

「切削介入に踏み切る診断基準」シンポジウム

—経過観察するべきか？ 充填処置するべきか？—

う蝕治療においてカリオロジーあるいはカリエスリスクコントロールという考え方が広まり、初期う蝕についてはメンテナンス治療下において経過観察することが多くなってきています。理想的にはカリエスリスクコントロールの結果う蝕の進行が停止して充填処置が必要なくなることが望ましいでしょう。しかし実際の臨床においては、う蝕病変が進行する場合もあります。どこまで進行したら充填処置するべきか？ まだ経過観察で大丈夫なのか？ 経過観察には何が必要か？ 臨床においては大きな悩みではないでしょうか？

実は数名のヘルスケア型歯科診療を実践している開業医が集まり症例検討を行なった時に、歯科医師により充填処置に踏み切る判断基準が異なっていることに気がつきました。そこで、初期う蝕の診断、特に切削介入に踏み切る診断基準という点について、一度考え直してみたいと思います。

学術的側面からの考察を長崎大学の飯島洋一先生に、臨床的側面からの考察を東京都にて開業の景山正登先生にお願いして、この問題

についての方向性を見つけたいと思います。

日 時：2007年9月2日(日) 10:00 a.m.～5:30 p.m.

会 場：川口市民ホール フレンディアC・Dホール

(JR川口駅東口駅前)

TEL. 048-227-7603 <http://www.friendia.jp/access.html>

定 員：150名

シンポジスト：飯島洋一先生(長崎大学)

景山正登先生(東京都開業)

コーディネータ：河野正清(日本ヘルスケア歯科研究会コアメンバー)

参加費：10,000円

(日本ヘルスケア歯科研究会会員・準会員は5,000円)

参加費には昼食費は含まれません

参加費の振込みをもって正式申し込みとさせていただきます

振込み後の自己都合によるキャンセルの返金には応じかねます

振込用紙をもって領収書の代わりにさせていただきます

申込方法：メールのみの受付とします。件名を「シンポジウム申し込み」とし、診療所名、診療所住所、参加者氏名(正会員は会員番号)、振込人名義を記入のうえ、nabedc@myad.jp(わたなべ歯科 渡辺 勝)までご連絡ください。一週間以内に、振込先を明記した受講証をメールにて返信いたします。

コアメンバー会議報告 13

開催日：2007年4月15日（日）午前10時～
 会場：八重洲倶楽部第6会議室
 出席者：足本 敦、河野正清、斉藤 仁、杉山精一、成田信一、藤木省三
 欠席者：伊藤 中、
 進行：斉藤 仁
 事務局：秋元秀俊

【報告事項】 2007年歯科衛生士育成コース準備状況

パンフレットを作りニュースレターに同封する。
 プロモーションDVDビデオを作り、貸し出しできるようにするなど検討。

2007 広島ワンデーセミナー報告、札幌セミナー準備状況

入会はしたが、何から始めるべきか具体的に知りたい人にも、満足を与える必要がある。ステップアップガイドを記入式にし、講演前に参加者が自己評価することで、自院の具体的な課題がわかるようにする。
 名刺交換などする機会を設ける。
 セミナー出席者を対象にフォローアップ・メーリングリストに参加者を募る（期日限定）、コアメンバーと会員支援部会希望者も参加してもらう。

2007 名古屋7月ワンデーセミナー

名古屋は足場もなく集客も厳しいため、集客方法を工夫する。

6月10日ウェルビーイングとのセッション

共催セッションの目的を確認。

【協議事項】 2007年調査事業

5月13日打合せ。
 調査1については、ニュースレターに新規募集。
 調査3の再調査をする。

次回認証ミーティング（9月9日予定）

発表のテンプレートを作成し、申請者に配布する。
 審査基準、申請書と更新申請書をステップアップガイドに沿って作成する。
 申請・更新条件は過去3カ月の来院者のうちメインテナンス患者が30パーセント以上とする。

都道府県技官の現在の指導状況調査と歯科衛生士業務範囲について

歯科衛生士法2条の業務範囲を改善するため柳沢厚生大臣あての陳情署名行う件につきオピニオンメンバーに諮って実施する。
 混合診療などの指導について都道府県単位で実態を調べるか。

2007年ヘルスケアミーティング

シンポジウムの組み立ては、次のコアメンバー会議の議題とする。

コアメンバー会議 予定

7月のコアメンバー会議

日時：2007年7月16日（月・祝） 午前10時～（予定）
 会場：歯科衛生士育成基礎コース会場
 議題：ヘルスケアミーティング2007プログラム。
 イギリスとドイツの歯科医料保障について保険医協会調査団と折衝する

※会員はどなたでも会議を傍聴できます。事務局までお問い合わせください。

本会催しもの
案内

スタッフまるごと
医院を変える

ワンデーセミナー名古屋 (基礎コース改め)

日時: 2007年7月8日(日) 午前9:50 ~ 午後4:00
会場: 安保ホール (名古屋市中村区名駅三丁目15-9 JR名古屋駅徒歩2分)

ワンデーセミナー名古屋 プログラム (予定)

9:50 ~ 10:00	進行についてオリエンテーション	
10:00 ~ 11:30	「健康を守り育てる歯科医療」の概念と行動 藤木省三	
11:40 ~ 12:30	伊藤歯科クリニックの初診からメンテナンスまで (1) —ペリオドントロジー, カリオロジーに基づく臨床—	伊藤 中
12:30 ~ 13:30	昼食休憩 (お弁当は用意していません)	
13:30 ~ 14:20	伊藤歯科クリニックの初診からメンテナンスまで (2) —ペリオドントロジー, カリオロジーに基づく臨床—	伊藤 中
14:30 ~ 15:30	「患者の気持ちと歯医者者の気持ちのすれ違い」 秋元秀俊 —予防ケアの難しさを患者, 歯科医師関係から考える—	
15:30 ~ 16:00	まとめと質疑応答 藤木省三	

ワンデーセミナー札幌 (基礎コース改め)

日時: 2007年5月20日(日) 午前9:50 ~ 午後4:00
会場: 北海道歯科医師会館 (札幌市中央区北1条東9丁目)

ワンデーセミナー札幌 プログラム (予定)

9:50 ~ 10:00	進行についてオリエンテーション
10:00 ~ 11:30	「健康を守り育てる歯科医療」とは……従来型歯科診療からの脱却を目指す (45分) 河野歯科の場合 (45分) 河野正清
11:40 ~ 12:30	ペリオドントロジー, カリオロジーに基づく臨床とは……初診からメンテナンスまでの具体的な流れ (50分) 足本 敦
12:30 ~ 13:30	昼食休憩 (希望者にはお弁当を別料金で用意します)
13:30 ~ 14:20	ペリオドントロジー, カリオロジーに基づく臨床とは (つづき) (50分) 足本 敦
14:30 ~ 15:30	はじめの一步をどうやって踏み出すか……さいとう歯科室の臨床から (60分) 齊藤 仁
15:30 ~ 16:00	質疑応答

参加費
(共通)

〈診療所ユニット参加〉	〈単独参加〉	〈非会員〉
正会員歯科医師 1名まで 8,000円	正会員歯科医師 8,000円	非会員歯科医師 10,000円*
準会員 3,500円	正会員歯科衛生士 3,500円	同伴スタッフ 3,500円
(正会員歯科衛生士と準会員のユニット参加も可能)	準会員 6,000円	単独参加 (歯科医師以外) 6,000円
		*参加登録と同時に研究会に入会する場合は, 参加費を入会金に充当する。

ワンデーセミナー 参加申込書 Fax. 03-3260-4906

※該当する□に✓をご記入ください

札幌 (5月20日) 名古屋 (7月8日) セミナーに参加申し込みます

会員用 (news10-2)

参加者氏名	会員 No.	<input type="checkbox"/> 入会希望	ユニット 単独	<input type="checkbox"/> 会員 Dr	<input type="checkbox"/> 準会員	<input type="checkbox"/> 会員歯科衛生士	<input type="checkbox"/> お弁当 (札幌のみ)
参加者氏名	会員 No.	<input type="checkbox"/> 入会希望	ユニット 単独	<input type="checkbox"/> 会員 Dr	<input type="checkbox"/> 準会員	<input type="checkbox"/> 会員歯科衛生士	<input type="checkbox"/> お弁当 (札幌のみ)
参加者氏名	会員 No.	<input type="checkbox"/> 入会希望	ユニット 単独	<input type="checkbox"/> 会員 Dr	<input type="checkbox"/> 準会員	<input type="checkbox"/> 会員歯科衛生士	<input type="checkbox"/> お弁当 (札幌のみ)

勤務先・診療所名

住所 〒 _____ TEL. _____ FAX. _____